

第175回 全経簿記検定試験 上級 一 会計学 模範解答

模範解答・予想配点・解説等は、学校法人高橋学園が独自の見解によって作成しており、検定試験実施機関における本試験の解答並びに出題の意図を保証するものではありません。なお、予告なしにその内容を変更する場合がございます。ご理解いただいたうえで、ご利用ください。

問題 1 〔丸数字は予想配点、合計 40 点〕

番号	正誤	理 由	
1	○		④
2	×	資産及び負債について、原則として流動性配列法とされている。	④
3	×	当該預金は、投資その他の資産に計上される。	④
4	○		④
5	×	「引当金処理」は「資産負債の両建処理」に比べて金額が小さくなる。	④
6	×	期待運用収益は、期首年金資産の額に長期期待運用収益率を乗じて計算する。	④
7	×	当該金額は、特別利益として処理する。	④
8	×	四半期財務諸表は、「実績主義」に基づいている。	④
9	×	当該科目は、純資産の部（その他の包括利益累計額）に記載される。	④
10	○		④

問題 2 〔丸数字は予想配点、合計 39 点〕

問 1

(a)	⑤ 会計方針
(b)	⑤ 会計上の見積り
(c)	⑤ 財務諸表の組替え

問 2

③ 前期損益修正項目

問 3

固定資産の耐用年数を短縮した場合には、固定資産の未償却残高を変更後の残存耐用年数にわたり償却する。⑤

問 4 (単位：円)

	期首残高	期中仕入高	期中払出高	期末残高
先入先出法（従来の方法）の場合	6,200,000	45,600,000	②38,600,000	②13,200,000
総平均法を遡って適用した場合	6,000,000	45,600,000	②38,700,000	②12,900,000

問 5

借 方		貸 方	
勘定科目	金 額	勘定科目	金 額
繰越利益剰余金	180,000	繰越商品	300,000
繰延税金資産	120,000		

③

問 6

仕入価格上昇時に、先入先出法から総平均法に変更した場合、貸借対照表上期末商品
原価は低く評価される。一方で損益計算書上、売上原価が大きくなり売上総利益は小さ
くなる。⑤

問題 3〔丸数字は予想配点、合計 21 点〕

	株 主 資 本										新 株 予 約 権	純 資 産 合 計
	資 本 金	資 本 剰 余 金			利 益 剰 余 金				自 己 株 式	株 主 資 本 合 計		
		資 本 準 備 金	そ の 他 資 本 剰 余 金	資 本 剰 余 金 合 計	利 益 準 備 金	そ の 他 資 本 剰 余 金		利 益 剰 余 金 合 計				
						新 築 積 立 金	繰 越 利 益 剰 余 金					
当 期 首 残 高	189,000	30,000	2,000	[32,000]	8,800	5,000	4,500	[18,300]	[△ 960]	[238,340]	[1,000]	[239,340]
当 期 変 動 額												
（ 新 株 の 発 行 ）	⑨ 11,000	11,000		11,000						22,000		22,000
（ 剰 余 金 の 配 当 及 び 処 分 ）		40	△ 540	③ △ 500	160	③ △ 3,000	840	△ 2,000		△ 2,500		△ 2,500
（ 自 己 株 式 の 処 分 ）			③ 60	60					③ 720	780		780
当 期 純 利 益							③ 1,800	1,800		1,800		1,800
（ 株 主 資 本 以 外 の 項 目 の 当 期 変 動 額 ）											③ △ 800	△ 800
当 期 変 動 額 合 計	11,000	11,040	△ 480	10,560	160	△ 3,000	2,640	△ 200	720	22,080	△ 800	21,280
当 期 末 残 高	200,000	41,040	1,520	42,560	8,960	2,000	7,140	18,100	△ 240	260,420	200	260,620

注 1：〔 〕の金額は、各自計算すること。
注 2：（ ）の中には、適当な語句を記入すること。